

令和元年度帯広市交通安全市民会議 議事要旨

1 日 時 令和元年12月23日(月) 14時00分～15時35分

2 会 場 帯広市役所10階第5B会議室

3 出席者

委員 太田 義彦、奥野 一男、佐竹 信也、清水 直子、鈴木 洋平、
高木 健康、武田 光史、塚田 茂男、塚本 俊二、戸塚 義明、
平舘 善明、前田 敏、村岡 克己、與坂 樹代二、米森 洋子
(以上15名、敬称略)

事務局 市民活動部長 野原 隆美、市民活動部企画調整監 佐藤 泰孝、
安心安全推進課長 大林 敏郎、安心安全推進課長補佐 杉山 和宏、
安心安全推進課係長 佐々木 正人、安心安全推進課主任 上野 智子、
安心安全推進課主任補 千田 真実 (以上7名)

4 会議次第

- (1) 開会
- (2) 委員照会
- (3) 会長選任(互選)
- (4) 副会長選任(互選)
- (5) 議事
 - ①交通事故の推移と発生状況について
 - ②令和元年度帯広市交通安全実施計画について
 - ③平成30年度帯広市交通安全実績報告について
- (6) 意見交換
- (7) 閉会

5 議事

事務局より①から③を一括して説明

- 今年度の実施計画と報告の資料を見させていただいた。中には社会問題化している運転免許証返納についての記述がないが、高齢者を対象とした研修等で返納についての説明や、返納を促進するような内容が行われているのか確認したい。

- 帯広市が行うものとしては高齢者ドライビング体験会を実施し、その挨拶の中で免許返納制度について触れている他、高齢者を対象とした研修会等でお話している。
また、高齢ドライバーのご家族向けのパンフレットを作成し、その中で返納について記載しており、毎年修正を加えてコミセンや福祉関係部署の窓口等に配置している。
実施計画の中では具体的な目標値等の設定が難しいことから、現実として記載していない。

- 帯広署管内の死亡交通事故が昨年よりも増え、今現在8件9名の方が亡くなっている。歩行者の事故を減らすため色々な取り組みを行った。2月と5月に帯広市内で歩行者の死亡事故が発生してしまったがそれ以外では起こっていない。市役所や交連協など関係機関の協力を得ながら抑えられたと思う。
アクセルとブレーキの踏み間違いによる事故が全国的にも報道されているが、関係の方からも援助をいただきながら、ブレーキ踏み間違い防止装置の補助金対策を行った。
全道的な傾向でもあるが、帯広署管内で亡くなっている9名のうち、7名は65歳以上の高齢者、事故を起こした運転者である第一当事者も高齢者。いかに高齢者に対して事故防止を図っていくかということが今後の課題。
老人クラブなどに入っている方は、何らかの形で「教育」がなされてきているし、いろんな面で気を付けている。どうしても外に出てこない人が事故に遭ってしまっている。
帯広市でも取り組んでいるいきいき交流会があるが、1,000名近くの高齢者の方、老人クラブ等に入っていない方を対象に講座等を行っており、こうした機会を広げて端末まで伝わるような方法をこれからもとって行きたいと考えている。

- 老人クラブに加入しているのは市内の高齢者の13パーセントくらい。講習会や高齢ドライビング体験会など、様々な講座を聞ける。事故に遭う人は、シートベルトをしていなかったり、夜光反射材を身に付けていなかったり、そのような話を聞いている。
高齢者が事故を多く起こしてしまっている自覚はあり、自分も責任を感じている。認知症の疑いのある人は免許を返納するように声をかけている。

- 自分の妻がアルツハイマーになり、62歳で免許を自主返納した。職員に用紙を貰ったが、自主返納と言っているのに、強制的に違反者に対する返納納付書を渡された。これが今の帯広市の実態なのだと思う。広報啓発について、そういったところに力を入れたらと感じた。
去年の会議ではバスやタクシーの割引について話が出ていたが、埼玉県ではミスタードーナツが2割引や、電動自転車の購入補助などもあり事業者向けのPRやお願いも良いかと思う。

- 認知症地域支援推進員という業務をしており、日々認知症の高齢者の方やご家族、医

療機関のご相談にのっている。高齢者の免許返納については問題がたくさんある。

自動車学校で行われる高齢者講習で簡易の認知症検査があるが、点数が取れない方には診断書提出命令が本人に送られてくるが、その文書が理解できなく免許を執行してしまう方、車検切れ・免許失効のまま運転している高齢者もあり、警察の方にお世話になり車を直ぐに処分したという方もいる。

車の運転には危険があると話をさせていただいているが、やはりこの十勝では車がないと大変不便、買い物に行けない、病院に行けないという思いが、特に家族の方にある。

事故を防ぐために少しでも早く、積極的に自主返納してほしいと思う。

- 老人クラブなど高齢者の会合で、帯広市として高齢者教育をしてほしいと思う。高齢者の事故について意識付けをしなければ事故は無くならない。みんな自分は大丈夫と思っているので、交通安全に関する意識を深めてほしい。
- 痛ましい事故の発生状況や高齢者の方々への対応について、皆さんにとって「一つ大きな考えるべきこと」であるということがよくわかった。実施計画にこういった意見を反映することを考えていくべきだと感じた。

6 意見交換発言要旨

- 交通事故の発生箇所について、交差点が多いということだが、死亡事故には至らなくても生活道路の交差点における事故は多いと思う。

帯広市内ではないが、町内会において生活道路の一時停止標識がない交差点に、自主的に一時停止標識を掲出しているところがある。推進するべきものなのか、少しやりすぎなのか。

一時停止標識の設置は、公安委員会に限られている。町内会で立てるものであれば一時停止を促すような看板等になると思うが、そこで一時停止を怠っても一時不停止の違反にはならない。一時停止と似たような看板を立てる場合は、警察等とも協議が必要。一概に先ほどのような取り組みを推し進めるというわけではないが、そういった取り組みを地域として進めることに関してはおしていきたいと考える。
- 市で開催している高齢者ドライビング体験会に参加し、自分が体験したことを老人会の広報紙に掲載している。実地指導や認知症検査もあり非常に参考になる。年々動体視力や身体機能も低下するので、体験会の受講をみなさんに進めている。
- 帯広市内にタクシー業者は8社あり、10年ほど前から8社全てにおいて65歳以上の高齢者のタクシー運賃の10パーセント割引をしているが、売り上げに対し約3パー

セントを超える値引きが発生している。タクシー利用が減っている中で、高齢者の利用割合が増えてしまいタクシー会社も最近はこの高齢者割引を続けることは厳しいという話が出てきている。

来年（2020年）の2月1日より、21年ぶりに運賃の値上げをする。現在行っている高齢者割引を廃止した場合、一気にお客さんが離れてしまうことを防ぐため、免許返納者に対する割引を考えている会社もある。

返納された方の足は公共交通機関、バスやタクシーになっていくと思うが、タクシー業界での割引は大変厳しい状況にある。

- バス業界では高齢者・免許返納に関して帯広市・関係市町村の一部で、高齢者に向けた地域ごとのバスの無料券を発行し、利用者も年々増えている。また、免許返納した際に運転免許経歴書を取得し、バスを降車する際に提示すると、十勝管内の全区間半額としている。免許を返納した方の生活の足として利用いただきたいが、バス停から自宅までは歩かなくてはいけない、冬であれば待ち時間が寒い、どうしても不便という声があり、どのように解決していくかというところが大きな課題と捉えている。

タクシーの相乗り、MaaS（マース）などを率先して進めていこうかと考えている。

- 自宅から目的地まで、あらゆる交通機関をつなぎ目なく利用できるような社会を実現させ、高齢者の方々が不安なく生活していけるような取り組みを進めていく。

- トラック協会が抱えている最大の課題はドライバー不足。新しいドライバーが入ってこないため職場の平均年齢も上がり、高齢化してきている。

事故防止の取り組みとして、11月、12月ではトラック協会でもシミュレーターを使い、100名を超えるトラックドライバーに、画面を見ながら降雪・凍結路面の危険性を認識してもらう体験会、8月は輸送繁忙期における事故防止研修会を開催している。事故自体はトラック事故を含め、間違いなく減ってきている。

- 身近で簡単な移動手段として自転車があるが、危ない運転をする自転車を見かける。

反射材をつける、目立つ格好をする、左側通行をする等マナーの啓蒙はこれからも進めていかなければならない。

帯広市内において自転車専用道路というのは無理だと思うが、自転車が少しでも安全に走れるような空間の整備が進めばと思っている。

- 市内小学校のほとんどで安全マップを作成している。メインは交通安全になっており、各家庭にわかりやすく、道路状況や危険箇所がわかる地図を作れるよう市の協力をいただけないか検討いただきたい。

以上

